総合型地域スポーツクラブにおける被災地支援活動

The Relief Activities for The Tohoku Earthquake Victims by Community-Based Sports Club

研究代表者　地域スポーツ政策研究所　所長　黒須　　充

１．調査研究の目的

東日本大震災以降、想像をはるかに超えた甚大な被害を目の当たりにした多くの人々が今、自分にできることは何かを真剣に考え、模索し、様々な形でアクションを起こしている。そこで、本研究では、総合型地域スポーツクラブが行ってきた被災地支援活動（原発事故の避難者支援活動含む）の取り組みや事例を紹介し、スポーツによる復興支援の可能性と今後の課題について明らかにすることを目的とする。

２．調査研究組織

＜研究代表者＞
健康・運動学系　黒須　　充
＜研究分担者＞
健康・運動学系　新谷　崇一
健康・運動学系　鈴木裕美子
健康・運動学系　安田　俊広

３．調査研究計画・方法

⑴岩手県、宮城県、福島県の震災後の総合型地域スポーツクラブの現状について調査を行う。
⑵被災地支援活動を積極的に行っている総合型地域スポーツクラブを訪ね、インタビュー調査及び資料収集を行う。

４．震災後の総合型地域スポーツクラブの現状

⑴岩手県

岩手県には45の総合型クラブがあるが、沿岸部にある５クラブの内、３クラブが活動休止中である。大槌町にある「吉里吉里スポーツクラブ」は活動場所が被災、指導者も町外へ転居した人も多く、再開は難しい。宮古市にある「シーアリーナスポーツクラブ」は、市内の１／３が津波により浸水、施設が使用できないため、活動休止中である。釜石市にある「唐丹地区すぽこんクラブ」は、活動地区が被災しており、活動再開の目途が立っていない。内陸部は、３月・４月は体育館が避難所になっていたことや、節電のため夜間の活動を自粛する動きがあったため、震災前のような活動をすることはできなかったが、５月頃からは活動を始めているクラブが少しずつ増えてきている。ただし、３月・４月はちょうど更新時期になっていたため、新規加入者や更新者が減り、活動そのものが縮小しているクラブも少なくない。

⑵宮城県

宮城県には32の総合型クラブがあるが、沿岸部は活動場所そのものが流されたことや生活も元に戻っていないため、多賀城市にある「NPO 法人多賀城市民スポーツクラブ」、気仙沼市にある「NPO 法人なんでもエンジョイ面瀬クラブ《NEO》」、女川町にある「女川町スポーツクラブネット」は活動を休止している。内陸部のクラブも震災により、体育施設が損壊したところが多く、５月上旬まではほとんどのクラブが活動を休止していた。震災後２ヶ月を過ぎ、ようやく、仙台市泉区にある「NPO 法人泉パークタウン SPO&COMクラブ」、七ヶ浜町にある「NPO法人アクアゆめクラブ」、松島町にある「NPO 法人マリソル松島スポーツクラブ」、仙台市泉区にある「南光台東エンジョイ倶楽部」、利府町にある「りふスポーツクラブ」、登米市迫にある「文化・スポーツクラブはさま」、登米市東和町にある「東和スポーツクラブあばせ」、石巻市にある「いしのまき総合スポーツクラブ」は一部活動を再開、大崎市田尻にある「たじりスポーツコミュニケーションクラブスポ楽（ら）」、美里町小牛田にある「中埣（なかぞね）NET クラブ」、仙台市泉区にある「向陽台総合型地域スポーツ・文化クラブ」、角田市にある「スポーツコミュニケーションかくだ」が活動を再開した。

⑶福島県

福島県には85の総合型クラブがあるが、「NPO 法人双葉ふれあいクラブ」や「NPO 法人おおくまスポーツクラブ」など12のクラブが原発から20㎞または30㎞圏内に入っていることから集団避難を余儀なくされ、地元に戻ることすら目途がたっていない。また、いわき市にある「NPO 法人勿来スポーツクラブ」、「泉ク

ラブ」、「いわき中央スポーツ・あいクラブ」も震災による影響で現在、活動を休止している。中通り、会津地方のクラブも体育館が避難所になっていることや、放射能の影響から屋外での活動を自粛する市町村が多く、震災前と同じように活動を行うことができるクラブはまだまだ少ないのが現状である。

⑷共通点

３県に共通している問題点は、クラブマネジャーや指導者、会員の多くが被災し、クラブ運営やスポーツ指導、活動そのものができないといった人材の問題、また、施設が損壊、体育館が避難所になっている、節電のため夜間照明が使えない、放射能の影響による屋外活動の自粛といった施設の問題、さらに、保護者の失業等で休会する子どもが増えている、震災が登録時期に重なったため、新規加入者や更新者が激減している、指定管理者の中止といった財政上の問題が、今後の活動再開に向けて、大きな障害となっている。

写真１：黒須ゼミの４年生と一緒にボランティア活動（陸前高田市）

写真２：津波でほぼ壊滅状態の陸前高田市

５．総合型クラブの被災地支援活動

⑴NPO 法人フォルダ

岩手県北上市にある NPO 法人フォルダでは、指定管理者として北上市内２ヶ所の避難所の運営を行うとともに、クラブ内にボランティア組織「いわてゆいっこ」を立ち上げ、震災の６日後から毎日のように大船渡市や陸前高田市（車で往復４時間）を訪れ、ツイッター等による呼びかけで集まった支援物資を避難所に届ける活動や、各避難所を回って、被災者の現状や要望を聞き出す活動をしている。また、北上市の事務所では、被災地で不足している物資の募集及び全国から届けられた物資の仕分け作業等を行っている（表１参照）。

①被災地支援活動内容

映画・読み聞かせ・ニューヨークとの架け橋・子供運動指導・高齢者運動指導・ヘリコプター・東ちづる写真展・小松由佳写真展・ハートニットプロジェクト・花火ライトアップニッポン・ひまわりプロジェクト・CD·DVD集配・メール手紙届け・花見会・安否確認（遺体安置所）・高校女子音楽部交渉・ラジオ生放送・花見温泉ツアー・傾聴・喫茶炊き出し・松下政経塾物資・被災者と行政とのパイプ・豚汁炊き出し・おにぎり炊き出し・歯科衛生指導・フラダンス・美容室送迎・避難所コンサート・北上市チャリティコンサート・郷土芸能・菓子作り・中心商店街イベント・物資届け・魚屋販売・沖縄エイサー巡回公演

②地域コミュニティの再生

被災者の生活全体の再建や地域コミュニティの再生には、顔の見える息の長い支援が必要であると考え、行政のように広く薄くではなく、緊急性の高い地域を絞って、支援を続けている。

陸前高田市松峯団地（130戸、400人）の自治会長にお話を伺ったところ、「震災から今日まで悲しみ、苦しみ、辛さで涙を流したことはありませんが、フォルダの皆さんに対する感謝のうれし涙は幾度も流しました。１個のおにぎりを５人で分けて食べるような日々が続きましたが、フォルダの皆さんが毎日のように松峯団地に立ち寄ってくれるようになったため、地区住民が少しずつ笑顔を取り戻し、前を向き始めました」と語ってくれた。

⑵NPO 法人とらい夢

新潟県新発田市にある NPO 法人新発田市総合型地域スポーツクラブとらい夢では、クラブの事務局がある「サンビレッジしばた」と活動場所の一つである「カルチャーセンター」が震災直後から避難所（福島県南相馬市からの避難者が多くを占める）となったため、クラブスタッフは体育指導委員と共に避難所内を巡回し「体調はいかがですか。気分転換に身体を動かしてみませんか」と声をかけ、個別的にストレッチの指導を行ってきた。その後、新発田市から「場所を確保するので、定期的に開催してはどうか」という提案を受け、体育指導委員、とらい夢の指導者４名、スタッフ２名の計６名のボランティアで被災者の方を対象とした「エコノミークラス症候群予防運動教室」を実施することになり、３月28日から４月15日の３週間で、延べ253名が参加した（写真3, 4）。

写真３：避難所内でのストレッチ体操

写真４：エコノミークラス症候群予防運動教室

⑶NPO 法人くちくまのクラブ

和歌山県上富田町にある NPO 法人くちくまのクラブ『SEACA』の平尾さんから、「福島の子どもたち30名を和歌山に招待し、南紀の自然の中でのびのび遊んでもらいたい」という申し出があった。早速、福島市にある NPO 法人エフ・スポーツを通して希望者を募ったところ、応募が殺到、キャンセル待ちが出るほどであった。小学４～６年31名が上富田町に招待され、７月30日～８月７日までの日程で白浜町の白良浜海水浴場や田辺市の熊野古道、渡瀬温泉、アドベンチャーワールドなど盛り沢山のプログラムに参加する機会を得た（表２参照）。

また、田辺市龍神村でのキャンプでは、町の子どもたちとの交流も行われ、鮎つかみや飛び込みなど、文字通り、水を得た魚のように元気に活動していた。

⑷半九レインボースポーツクラブ

宮崎県宮崎市にある半九レインボースポーツクラブ（宮崎市）の澤山氏は、地震発生２日後に、支援物資を届けるために、宮崎市から仙台まで自家用車（陸路）でやってきて以来、これまでに６回東北を訪れ、宮崎県の総合型地域スポーツクラブ等の協力により集めた支援物資を届け、被災地でボランティア活動を行っている（表３参照）。

アクアゆめクラブ（宮城県七ヶ浜町）、塩竈FC（宮城県塩竈市）、とらい夢（新潟県新発田市）なかよしクラブすなみ（岐阜県瑞穂市）など、総合型地域スポーツクラブの「ネットワーク」を活かしながら、チャリティイベント、現地ボランティア、募金活動など幅広い支援活動を展開している。

６．まとめにかえて

現代社会は、個人主義化が進行し、社会の形成において欠くことのできない個人間のつながりや信頼関係、規範意識が希薄化していると言われている。しかし、今回の東日本大震災によって、助け合い、支え合い、自治体同士の相互支援など、人と人、組織と組織の結びつきや絆の大切さが見直されるようになってきた。

今回、総合型地域スポーツクラブの被災地支援活動に着目して研究を進めてきたが、地域スポーツクラブがシステムとして持っている能力の中に、行政の支援が行き届かない住民や個人的なニーズにも柔軟に対処し、いち早く必要としている人々に的確でタイムリーな支援活動を行うことができる力があり、これからの復興に極めて重要な役割を果たす可能性があるのではないかと感じた。

表１　NPO 法人フォルダの被災地支援活動（2011年３月16日～５月31日）

日付	曜日	場所・行き先	被災地支援人数	支援活動
３月16日	水	北上市の事務所		ツイッター（全国の人々）や NPO 法人フォルダ関係の人に物資の提供を呼びかける。
３月17日	木	大船渡市長源寺、三陸町越喜来	３名	知人の安否の確認、現地の情報収集、必要な物資・支援などの聞き込み、支援物資を届ける。
３月19日	土	大船渡市、陸前高田市	５名	ワゴン車と２㌧トラックで物資を届ける。
３月20日	日	大船渡市円満寺、陸前高田市松峯団地ほか	７名	自宅避難者等に足りない物資を届ける、安否の確認、情報の提供、情報の収集
３月21日	月	大船渡市、陸前高田市	２名	被災地での支援活動と平行し、事務所では足りない物資の募集と届けられた物資の仕分け作業を行う。関東から支援物資が30箱到着。
３月22日	火	大船渡市、陸前高田市	２名	物資を届ける、情報収集（聞き取り）、大東町ボランティアセンターで合同会議
３月23日	水	大船渡市、陸前高田市松峯団地ほか	３名	不足物資を届ける、松峯団地に方に娘さんから預かった手紙を渡す。
３月24日	木	陸前高田市金剛寺、松峯団地ほか	５名	物資の運搬、軽油・ガソリンが底をつき、寄付を募りつつ活動。
３月25日	金	陸前高田市	３名	上村愛子さん等からスキーウエアの入った段ボール300箱届く。早速、被災地に届ける。
３月26日	土	北上市		東陵中グラウンドでヘリが発着できるように20人でサッカーゴールを移動する。
３月27日	日	陸前高田市松峯団地	13名ほか	朝８時から約100名のボランティアでおにぎりと豚汁作り。炊き出し車11台で陸前高田市松峯団地に豚汁とおにぎりを届ける。
３月28日	月	陸前高田市	３名	ヘリ３機。全日本スキーヤー竹鼻選手が発電機を持参、他の物資と一緒に被災地に届ける。登山愛好家小松由佳さんがボランティア参加のため北上入り。
３月29日	火	大船渡市、陸前高田市末崎避難本部ほか	５名	ヘリコプターで岐阜から物資が到着。末崎避難本部等に物資を届ける。
３月30日	水	大船渡市松崎地区、陸前高田市広田の避難所	７名	大船渡市の松崎地区に重点的に物資を届ける。陸前高田市広田には、花巻支部からの依頼物資を届ける。翌日の物資運搬のため、住田町役場に泊まる。
３月31日	木	大船渡市	７名	大船渡市松下政経塾で物資を受け取る。20㌧トラック３台分の物資を運搬する。
４月１日	金	北上市の事務所		翌日の物資運搬用トラックの募集をかける。ラジオ番組に出演し、被災地の最新状況を話す。
４月２日	土	北上市の事務所		翌日の炊き出しのためのおにぎりボランティア募集をかける。３日分の買い出し。
４月３日	日	釜石市、大船渡市、陸前高田市	18名	茨城のボランティア団体が炊き出しを行い、被災地におにぎり等を届ける。
４月４日	月	大船渡病院、陸前高田市松峯団地ほか	８名	物資を届ける。松峯団地区長のお見舞い、情報収集、支援の希望の聞き取りと調整
４月５日	火	大船渡市末崎中学校、陸前高田市金剛寺ほか	11名ほか	復興ミニコンサート（末崎中、松峯団地、金剛寺）を行う。
４月７日	水	大船渡市長源寺、陸前高田市金剛寺ほか	14名	長源寺コンサート、正徳寺、末崎中、金剛寺にに物資を運搬する。
４月８日	金	北上市の事務所		大きな余震があり、翌日から北上市青少年ホームが避難所となるため、対応準備。
４月11日	月	陸前高田市米崎小避難所、金剛寺ほか	４名	アニメ映画上映会（うちのタマ知りませんか、忍たま乱太郎ほか）、金剛寺に物資を届ける。
４月12日	火	陸前高田市米崎小避難所、松峯団地、金剛寺	２名	紙芝居、読み聞かせ会、物資を届ける。花見（４／17）や支援イベントの打ち合わせを行う。
４月14日	木	北上市		花見（４／17）の買い出しを行う。
４月15日	金	陸前高田市金剛寺	10名	金剛寺で４月17日に行われる花見の準備、花巻倉庫に運搬（15名）
４月16日	土	北上市		北上市青少年ホームにて、じゃーんず、バンビークルー王子のミニライブ。
４月17日	日	陸前高田市金剛寺	25名	第１回陸前高田さくら祭、八木巻神楽、鬼剣舞等が披露される。マスコミ総勢100名あまり来た。
４月19日	火	釜石市釜石高校避難所	１名ほか	釜石高校避難所でじゃーんずのミニライブを企画、同校合唱部とのコラボも実現。
４月23日	土	花巻市	10名	花巻支部倉庫で支援物資の仕分けを行う。
４月24日	日	大船渡市海楽荘、陸前高田市第一中学校ほか	７名	末崎中学校で炊き出し（おにぎり570個、豚汁、手作りのお菓子等）を行い、大船渡市海楽荘や陸前高田市第一中学校や金剛寺の避難所に届ける。
４月25日	月	北上市		北上市の観光協会と連携し、被災した方をお花見＆温泉に招待するプランの募集を開始する。
４月29日	金	北上市瀬美温泉		陸前高田市松峯団地の方を北上市にある瀬美温泉に招待する。
５月１日	日	北上市		北上市さくらの西館１階で「北上なう」イベントを開催、三陸の海産物の販売、まるすず（陸前高田市魚屋）出店、温泉足湯、フラダンスショー、佐々木由香利ライブ、豚汁サービスなど。
５月２日	月	北上市の事務所		テレビ朝日報道ステーション取材対応。
５月３日	火	北上市		北上市さくらホールでチャリティライブを行う。プレゼント：CD350枚、DVD10枚、CD デッキ３台。
５月５日	木	北上市		北上市詩歌の森公園でチャリティランニング・ウォーキングを実施、参加者30名。
５月６日	金	大船渡市、陸前高田市	９名	大船渡市役所に布団の搬入、松峯団地や米崎小学校避難所に CD と CD デッキを搬入、高田保育所に預かった物を渡す。
５月15日	日	陸前高田市松峯団地、金剛寺	16名	松峯団地でフラダンスショー（参加者約150名）、歯科衛生（７名）、金剛寺に女性用長靴を届ける。
５月18日	水	北上市和賀町		物資の運搬、ニーズ調査
５月21日	土	北上市水神温泉	２名	大船渡市からの避難者に物資を届ける。
５月22日	日	北上市和賀町		避難者９名を花巻の倉庫へ送迎し、物資調達。
５月23日	月	盛岡市	２名	ハートニットプロジェクトの打ち合わせ
５月26日	月	北上市和賀町水神温泉		水神温泉で避難生活を送っている被災者の方を北上市中心部へ送迎（買い物、美容院、銀行等）
５月31日	火	宮古市		宮古市田老字八幡　県立宮古北高校でジャージの受け取り

表２　和歌山県上富田町企画の「出会いふれあい交流事業」

日時		内容	宿泊先
７月30日	㈯	午前８時　福島駅前出発（60人乗）　午後８時　上富田着	民宿
７月31日	㈰	アドベンチャーワールド（終日）夕方、ホームスティ先と合流	ホームステイ
８月１日	㈪	未定　～体験教室を計画中！～	ホームステイ
８月２日	㈫	アウトドア体験教室　田辺市龍神村丹生の川温泉「ヤマセミの郷」 清流での川遊び、バーベキュー、木工教室…	ヤマセミの郷
８月３日	㈬	アウトドア体験教室　田辺市龍神村丹生の川温泉「ヤマセミの郷」 ナン作り、ナンカレー試食会…	ヤマセミの郷
８月４日	㈭	アウトドア体験教室　田辺市龍神村丹生の川温泉「ヤマセミの郷」 流しそうめん…	ホームステイ
８月５日	㈮	午前中、上富田スポーツセンターでスポーツ体験教室　２時間 午後は、自由行動	ホームステイ
８月６日	㈯	観光やショッピングなど… 午後７時　上富田出発　翌日午前９時　福島駅着	

表3　半九レインボースポーツクラブ澤山氏等の被災地支援活動（2011. 3. 13−7. 30）

No.		日付	行先	施設名	相手方	対象人員	支援内容	詳細	メンバー	協力	備考
Ⅰ	1	3/13	宮崎→宮城				移動	陸路	澤山	企業、他	自家用車給油困難 余震多発
	2	3/14	宮城県仙台市	企業社宅	リーダー	20	救援物資	飲料水（スポーツドリンク）宮崎より			
	3	3/15	宮城県大衡村	企業工場	リーダー	1000	救援物資	飲料水（スポーツドリンク）宮崎より			
	4		宮城県仙台市	社会福祉協議会	担当者		救援物資	飲料水等			
	5		宮城県仙台市	災害支援センター	担当者		救援物資	飲料水等			
	6		宮城県仙台市	宮城野区避難所 高砂中学校	リーダー	1000	救援物資	食料、飲料水、果物、野菜ジュース等 （山形まで戻って購入）			
	7	3/16	宮城→大阪				移動	陸路			
Ⅱ	8	3/20	宮崎出発	クラブ事務所			救援物資	半九レインボークラブ事務所で最終積込み ダンボール約500個　出発→陸路	澤山	企業数社 うづらクラブ 佐土原クラブ 住吉クラブ その他	トラック 給油困難 余震多発
	9	3/21	宮城県仙台市	民間ボランティア	リーダー	10	救援物資	日向夏みかん、宮崎野菜ジュース等			
	10	3/22	宮城県大衡村	企業工場	リーダー	1000	救援物資	日向夏みかん、宮崎野菜ジュース等			
	11		宮城県富谷町	企業工場	リーダー	50	救援物資	日向夏みかん、宮崎野菜ジュース等			
	12		宮城県	サッカー協会	会長	10	救援物資	日向夏みかん、宮崎野菜ジュース等			
	13		宮城県塩釜市	避難所／塩釜 FC	理事長	10	救援物資	日向夏みかん、宮崎野菜ジュース等			
	14		宮城県七ヶ浜町	総合型地域 SC アクアゆめクラブ	クラブマネジャー	10	救援物資	日向夏みかん、宮崎野菜ジュース等			
	15		宮城県七ヶ浜町	避難所（町営スポーツ施設）	リーダー	1500	救援物資	ダンボール約500個を届けた 食料、米、飲料水、果物、野菜ジュース、毛布／衣類（新品含む）、オムツ、文房具、他			
	16	3/23	宮城→大阪				移動	陸路			
	17	3/24	大阪→宮崎				移動	陸路			
Ⅲ	18	4/8	宮崎	クラブ事務所			作戦会議	半九レインボークラブ事務所で最終打合せ	ありがとう！ 宮崎チームⅠ （8名）	企業数社 うづらクラブ 佐土原クラブ 住吉クラブ その他	マイクロバス フェリー 高速道路
	19	4/9	宮崎→大阪				積込→移動	クラブ事務所で最終積込み→出発			
	20	4/10	大阪→宮城				移動	北陸道			
	21		岐阜県瑞穂市	総合型地域 SC なかよしクラブすなみ	理事長		支援物資	支援物資として、米60kg・スコップ10本（新品）を頂いた日向夏を届けた			
	22		新潟県新発田市	総合型地域 SC とらい夢・サンビレッジ	クラブマネジャー	200	支援物資	宮崎野菜等を届けた おもちゃ等を頂いた			
	23	4/11	宮城県塩釜市	避難所／塩釜 FC	理事長	10	支援物資	宮崎野菜、日向夏みかん、ジュース等			
	24		宮城県七ヶ浜町	総合型地域 SC アクアゆめクラブ	クラブマネジャー	10	支援物資	宮崎野菜、日向夏みかん、ジュース等			
	25		宮城県利府町	宮城県サッカー協会	サッカー協会 事務局	10	支援物資 物資仕分	ダンボール約200個を届けて仕分けを行った その他にも、宮崎野菜、日向夏、野菜ジュース、お菓子等			
	26		福島県福島市	避難所 総合体育館 南相馬市等から	クラブマネジャー	1500	支援物資	宮崎野菜、日向夏みかん、ジュース等			
	27		福島県郡山市	避難所 アリーナ 富岡町から	リーダー	2000	支援物資	宮崎野菜、日向夏みかん、ジュース等			
	28	4/12	宮城県七ヶ浜町	総合型地域 SC アクアゆめクラブ	クラブマネジャー		清掃	プール、トイレの清掃			
	29		宮城県七ヶ浜町	総合型地域 SC 中央公民館	リーダー	350	炊き出し	宮崎元気汁、宮崎野菜サラダ、日向夏デザート等			
	30	4/13	宮城県七ヶ浜町	総合型地域 SC アクアゆめクラブ	クラブマネジャー	10	瓦礫処理	与ヶ浜のガレキを撤去した 応援メッセージ作り			
	31		宮城県七ヶ浜町	総合型地域 SC 国際村	リーダー	230	炊き出し	宮崎元気汁、宮崎野菜サラダ、日向夏デザート等			
	32	4/14	宮城県七ヶ浜町	総合型地域 SC アクアゆめクラブ	クラブマネジャー		支援物資	鯉のぼり			
	33		宮城県石巻市	石巻中学校	リーダー		支援物資	鯉のぼり、飲料水、お菓子等			
	34		宮城県石巻市	山下小学校	リーダー		支援物資	鯉のぼり、日向夏、卵、お菓子等			
	35		宮城県塩釜市	塩釜 FC	理事長		支援物資	鯉のぼり、等			
	36	4/15	仙台→大阪				移動	マイクロバス			
	37	4/16	大阪→宮崎				移動	フェリー			
Ⅳ	38	4/30	宮崎→福島				移動		ありがとう！ 宮崎チームⅡ （8名）	うづらクラブ 佐土原クラブ 住吉クラブ ぐんけい チームⅠ その他	マイクロバス フェリー 高速道路
	39	5/1	福島県福島市	避難所 花月グランドホテル 南相馬市から	クラブアドバイザー クラブマネジャー	160	支援物資	宮崎野菜を食材として活用してもらう きゅうり、キャベツ、レモン、つけもの、お菓子、ブロッコリー、日向夏、漬物、トマト、はっさく、お菓子等			
	40	5/2	宮城県塩釜市	塩釜 FC クラブハウス	サッカー協会会長 兼塩釜 FC 理事長	10	支援物資	宮崎野菜を食材として活用してもらう きゅうり、キャベツ、レモン、つけもの、お菓子、ブロッコリー、日向夏、漬物、トマト、はっさく、お菓子、EM 菌等			
	41		宮城県利府町	宮城県サッカー協会	サッカー協会事務局	10	支援物資 物資仕分	サッカーウエア、EM 菌、 宮崎のお土産（日向夏）日向夏、野菜ジュース、EM 菌、ウエア、お菓子、等			
	42		宮城県七ヶ浜町	避難所 七ヶ浜町運動公園	ボランティアセンター	150	清掃	避難所のトイレ清掃 EM 菌			
	43		宮城県七ヶ浜町	総合型スポーツクラブ アクアゆめクラブ	クラブマネジャー	30	支援物資	宮崎野菜、きゅうり、キャベツ、日向夏、お菓子、等			
	44		宮城県七ヶ浜町	仮設住宅 七ヶ浜町運動公園	クラブマネジャー	150	鯉のぼり	入居前の仮設住宅に鯉のぼりを設置した			
	45	5/3	宮城県塩釜市	塩釜 FC グラウンド	塩釜 FC 理事長	200	地鶏バーベキュー、支援物資、サッカースクール、レクレーション	地鶏炭火焼、日向夏、 野菜ジュース、お菓子、 サッカースクール、レクレーション、野菜ジュース、ヨーグルッペ、お菓子			
	46		宮城県石巻市	避難所 石巻高校	石巻 SSC 理事長	160	炊き出し	炊き出し サラダ、日向夏、他 レクレーション、オヤツ、鯉のぼり			
	47	5/4	宮城県石巻市	西光寺	クラブマネジャー 住職	30	ガレキ撤去ヘドロ除去 物資お届け	スコップ、ピーマン、キャベツ、ネーブル、鯉のぼり、お菓子			
	48		宮城県登米市	避難所 登米スポーツ施設	リーダー	200	炊き出し	炊き出し サラダ、日向夏、他 レクレーション、オヤツ、鯉のぼり			
	49	5/5	宮城県登米市	避難所 津山若者体育館	市民生活課	200	炊き出し サッカー フライングディスク	炊き出し 地鶏、サラダ、日向夏、他 サッカー、フライングディスク、 おやつ、鯉のぼり、等			
	50	5/6	宮城→宮崎				移動				
Ⅴ	51	6/17	宮崎→宮城				移動		レインボー 伴走協会 （6名）	チームⅡ その他	航空機 新幹線 レンタカー
	52	6/18	宮城県奥松島、女川、雄勝、他	港、海岸	−	−	視察	復旧状況確認			
	53	6/19	宮城県石巻市	駅前商店街	石巻 SSC 理事長	300	フリーマーケット	フリーマーケット 宮崎特産品を販売 売上13, 951円を寄付			
	54	6/20	宮城県石巻市	駅前商店街裏路地	石巻ボランティアセンター	10	駐車場ヘドロ除去	砂利駐車場に溜まったヘドロを砂利と一緒に 約20人でスコップ等で除去（終日作業）			
	55	6/21	宮城→宮崎				移動				
Ⅵ	56	7/23−25	宮崎→岩手八幡平			3	移動		澤山他２名		
	57	7/26		安比高原サッカー場		350		東北復興記念サマーサッカー2011（U12）			
	58	7/26		ホテル安比グランド本館		50		ネッツバー（被災地支援活動会議）			
	59	7/27	岩手八幡平→福島	福島		3		福島の復興状況確認打合せ			
	60	7/27−30	福島→宮崎	羽田空港経由		2	移動	参加者の一人は飛行機で宮崎へ			

福島大学東日本大震災総合支援プロジェクト「緊急の調査研究課題」

総合型地域スポーツクラブの被災地支援活動

The Relief Activities for The Tohoku Earthquake Victims by Community-Based Sports

黒須　充（地域スポーツ政策研究所）

【はじめに】

東日本大震災以降、想像をはるかに超えた甚大な被害を目の当たりにした多くの人々が今、自分にできることは何かを真剣に考え模索し、様々な形でアクションを起こしている。岩手県北上市にあるNPO法人フォルダでは、指定管理者として北上市内2ヶ所の避難所の運営を行うとともに、クラブ内にボランティア組織「いわてゆいっこ」を立ち上げ、震災の6日後から被災地に入り、炊き出しや情報収集、あるいは全国のクラブやスポーツ関係者から届けられた支援物資を被災地に届ける活動を積極的に行ってきた。また、現在も、運動指導、温泉送迎、ミニコンサート、子どもたちへの本の読み聞かせなど、積極的な活動を続けている。

【研究の目的】

現代社会は、個人主義化が進行し、社会の形成において欠くことのできない個人間のつながりや信頼関係、規範意識が希薄化していると言われている。しかし、今回の東日本大震災によって、助け合い、支え合い、自治体同士の相互支援など、人と人、組織と組織の結びつきや絆の大切さが見直されるようになってきた。そこで本研究では、総合型地域スポーツクラブNPO法人フォルダの被災地支援活動の概要を把握するとともに、クラブ内のボランティア組織「いわてゆいっこ」の活動が地域コミュニティの再生にどのような役割と機能を果たしているのかについて、陸前高田市松峯団地を事例に研究を進めてきた。

【研究の方法】

1．NPO法人フォルダの被災地支援活動の概要を把握するため、ボランティア組織「いわてゆいっこ」のメンバーを対象としたフォーカス・インタビュー
2．陸前高田市松峯団地の住民を対象としたフォーカス・インタビュー

【結果と考察】

1．被災地支援

表1に示したように、スタッフは、毎日のように大船渡市や陸前高田市（車で往復4時間）を訪れ、ツイッター等による呼びかけで集まった支援物資を避難所に届ける活動や、各避難所を回って、被災者の現状や要望を聞き出す活動をしている。また、北上市の事務所では、被災地で不足している物資の募集及び全国から届けられた物資の仕分け作業等を行っている。

2．地域コミュニティの再生

陸前高田市松峯団地（130戸、400人）の住民間に支え合う意識が芽生え、強い絆の形成が見られた。

【まとめ】

被災者の生活全体の再建や地域コミュニティの再生には、極めて長い時間を要することになる。黒須ゼミでは、今後ともNPO法人フォルダと協力し、行政のように広く薄くではなく、緊急性の高い地域を絞って、今後も顔の見える息の長い支援を続けていく予定である。

黒須ゼミの4年生と一緒にボランティア活動（陸前高田市）

津波でほぼ壊滅状態の陸前高田市

【お問い合わせ先】
960-1296　福島市金谷川1　福島大学研究協力課
TEL：024-548-8009　E-mail：kyoudo@adb.fukushima-u.ac.jp